

加賀電子株式会社
2020年3月期（第52期） 決算説明会
主な質問と回答

日時： 2020年5月28日（木）16:00～16:30
（オンライン説明会）

<ご留意事項>

「主な質問と回答」は、決算説明会にご出席されなかった方々の便宜のため、参考として掲載しています。説明会でお話したこと全てをそのまま書き起こしたのではなく、当社の判断でポイントのみ簡潔にまとめたものであることをご了承ください。

また、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の実績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご了承ください。

Q：2020年3月期は営業利益が100億円となり、期初予想に対して30億円ほど上振れた。その一つの要因として富士通エレクトロニクスが貢献したと思うが、この点についてどう評価しているのか。

A：富士通エレクトロニクスは、期初の営業利益予想5億円に対して最終的に20億円で着地しました。サイプレス社との契約や三重富士通セミコンダクターのファウンダリービジネスが、期初の想定よりも終了時期が延伸した分、利益が増加しました。加えて、グループ会社化以降の営業努力によって富士通エレクトロニクスの利益率自体が0.5%改善したことも要因としては大きいと考えております。

Q：EMSが好調のようだがどのような用途向けが良かったのか？次期の見通しはどうか？

A：2020年3月期は、2月から3月にかけて新型コロナウイルス感染症の影響が中国でありましたが、現地の頑張りもあり、非常に早期に再稼働できました。また、3月末までに中国政府から補助金の支給もあり、機会損失は概ねカバーできています。客先の業界別では、米国向け医療機器が順調に推移し、収益に大きく貢献いたしました。

2021年3月期は車載向けが厳しい状況でのスタートとなりました。この他、事務機器、空調関連も上期は厳しい状況です。これらの客先では工場が休止したことの影響が大きいのですが、一部を除いて生産は再開しつつあり、積み残した分を作ろうとする動きもあります。

一方、米国向けの医療機器については、足元でも順調に売り上げが伸びております。意外なところでは、ステイホームということで電子楽器向けの増産依頼が増えたり、マスク生産装置が増産になったことを受けて産業機器向けのモーターやサーボンプ関連の基板実装の引き合いが増えるなどしております。また、新型コロナウイルス対策のための洗浄機能付き便座向けの生産も伸びています。

以上のことから、上期はある程度収益は落ちると思いますが、下期はそこそこ上向くのではないかと期待しています。

Q：エクセルの連結による影響はどの程度か？2020年3月期予想では赤字を見込んでいたが、2021年3月期に向けて改善策はあるか？

A：エクセルの2020年3月期は、売上高533億円、営業損失6.9億円、当期純利益9.5億円でした。当社に譲渡するにあたり、滞留在庫の処分など負の遺産の清算により損失を計上しましたが、今後はその分がなくなりますので正常に戻ると考えております。2021年3月期は、買収した直後でもあり控え目にみて、売上高500億円、営業利益で±0（ゼロ）と想定しております。

Q：2021年3月期の売上高・営業利益は減収減益の目線とのことだが、エクセルの売上高500億円が連結されても減収になってしまうのか。富士通エレクトロニクスの減収影響が大きいのか？

A：富士通エレクトロニクスの減収分はエクセルのグループ会社化でカバーできていると考えていますので、実力としては2020年3月期並みの水準は見込むことができます。そこから新型コロナウイルスの影響でどれだけ売り上げが減られるか現時点では合理的に見通せないため、大まかな方向感として減収減益としております。

Q：サイプレス分は売り上げで200億円ぐらいの落ち込みだと思うが、三重富士通セミコンダクターの分はどれくらい落ちるか？

A：三重富士通セミコンダクターの分が売上高で300~400億円減少すると想定しております。ただし、このビジネスは低マージンであるため、利益面での影響は限定的と考えます。

Q：2021年3月期は大きな商権が喪失するが、今後どのように対処するのか。

A：富士通エレクトロニクスでの商権解消による売り上げ減で一步後退することになりますが、既存・新規商材による販売拡大で挽回を図ることに加え、EMSの売り上げを増やしていく考えです。直ちにリカバリーすることはできませんが、来期以降、每期着実に収益向上を目指します。

Q：今期が減収減益とすると中期経営計画に掲げた目標から一步下がる感があるが、どのようにして中計の営業利益130億円の達成を目指すのか。

A：中計の中間年となる2021年3月期は、想定外の新型コロナウイルスの影響により、一旦踊り場になりますが、最終年度までまだ2年ありますので、旗はおろさずグループ全体で努力していきたいと思っております。

Q：2021年3月期は4月、5月と2か月が過ぎましたが、出足はどうか？

A：EMSビジネスでは、メキシコとインドの工場が操業を休止しておりますが、それ以外は順調に稼働しています。感触としては、4~6月よりも7~9月の方が厳しい状況になるのではないかとみています。電子部品ビジネスについても、4~6月は順調に動いている感触ですが、7~9月は調整が入るのではないかとみています。

※メキシコ、インドの両工場は、6月1日より生産を再開しました。

以上